

平成 22 年度 ADB(アジア開発銀行)ラオス行政官公共政策研修
-ADB Public Policy Training Program for Lao PDR-



研修期間：

- ①ラオス【第 1/第 2 グループ】平成 22 年 7 月 26 日～8 月 6 日 (2 週間)
- 神戸【第 1 グループ】 平成 22 年 8 月 22 日～8 月 29 日 (8 日間)
- 神戸【第 2 グループ】 平成 22 年 9 月 5 日～9 月 12 日 (8 日間)
- ②ラオス【第 3/第 4 グループ】平成 23 年 2 月 7 日～2 月 18 日 (2 週間)
- 神戸【第 3 グループ】 平成 23 年 2 月 27 日～3 月 5 日 (1 週間)
- 神戸【第 4 グループ】 平成 23 年 3 月 13 日～3 月 19 日 (1 週間)

研修場所：ラオス ビエンチャン/神戸/名古屋/姫路

研修内容：公共部門マネジメント、包括的開発政策など広範囲の公共政策課題を網羅した講義/視察

参加研修員：ラオス行政官 100 名 (各グループ 25 名)



(ラオスにて講義)



(神戸にて講義・ワークショップ)

ADB(アジア開発銀行)ラオス行政官公共政策研修は、日本政府基金を財源とした、アジア開発銀行の公共政策研修プログラム「地域技術援助」に基づき、承認された研修です。当財団は、神戸大学大学院国際協力研究科と協力して本研修を実施し、研修指導を神戸大学大学院国際協力研究科が、事務・運営を当財団が担当しました。

1 年間に 2 回、50 名ずつラオスのビエンチャンで、2 週間の研修を行い、その後、25 名ずつ神戸に迎え、日本研修を行いました。本研修で神戸を訪れたラオスの研修員は、1 年間で総勢 100 名にのぼります。

研修の目的は、ラオスのより良い政策改革の検討・策定を実現するために、ラオス行政官の知識及び政策立案実施に必要な技術の向上を図ることであり、包括的開発政策、世界遺産の保存と観光産業振興、災害マネジメントなど、広範囲にわたる講義・視察を行いました。

～研修を振り返って～

ラオスは、ベトナム、中国、ミャンマー、タイ、カンボジアに囲まれた、東南アジア唯一の内陸国で、豊かな森林資源を有する国です。本研修は、そんな自然豊かな国、ラオスの首都ビエンチャンにある International Cooperation and Training Center にて、1 年に 2 回、50 名ずつ、ラオスの行政官を対象に行いました。開講式では、ラオス首相府行政・公務員監督庁の副議長や在ラオス日本大使館の特命全権大使、そして ADB ラオス事務所

長を迎え、祝辞を頂きました。研修員は、これから始まるラオス現地研修と日本研修に大きな期待を抱きながら、開講式・オリエンテーションに出席し、研修日程や日本滞在中の生活概要に、熱心に耳を傾けていました。特に、日本の食事、気候、物価、交通など、生活に即した留意事項については、研修員の関心も高く、新幹線のスピードは？というような質問も出され、来日を楽しみにしている様子でした。

ラオスでの2週間の現地研修では、日本から神戸大学の教授や日本経済研究所の講師、そして、隣国タイからは、アジア工科大学院の講師を迎え、「政府と市場経済」「財政」「公的部門マネジメント」など、広範囲にわたる分野の講義を行いました。

2週間のラオス現地研修を修了した研修員は、2グループに分かれて25名ずつ日本研修に参加しました。もち米を主食とするラオスの研修員にとって、日本の食事は馴染みやすいもののように感じましたが、唯一、日本食のマイルドな味付けには、少し物足りなさを感じ、帰国が近づくにつれて、タイ料理やベトナム料理と共通するラオス特有の「辛い料理」が恋しくなったようです。

日本研修では、神戸を中心に、「日本の政治システム」や「トヨタ生産システム」「災害マネジメント」など、多分野にわたる講義を行いました。また、「姫路市の世界遺産の保存と観光産業振興への取組」の講義の際には、姫路へ向かい、あわせて姫路城の視察も行いました。ラオスには、1995年に町全体がユネスコの世界遺産に登録され、数多くの寺院が並ぶ世界遺産都市・古都ルアンパバーンがあります。同じ、世界遺産を有する国として、観光資源の保護と観光振興について活発な質疑応答が繰り広げられ、非常に有意義な講義・視察になったようです。また、姫路城大天守保存修理が始まっていたため、姫路城の全貌を見ることはできなかったものの、研修員は、青空に映える真っ白な城壁に感動していました。

1年間に本研修で来日したラオスの研修員は、総勢100名にのぼります。これほどまで多くの研修員を神戸に迎え、日本を体験してもらえたことを、改めて嬉しく思います。そして、神戸の魅力・日本の魅力を広くラオスの人々に伝えますという、研修員の言葉に感謝の思いです。研修を通して得た知識や経験が、今後のラオスの更なる発展に繋がると共に、日本とラオスの交流が更に深まることを願っています。

研修担当：原田 美保代

研修実施機関：ADB(アジア開発銀行)より委託を受け、神戸大学大学院国際協力研究科と協力して当財団が実施

研修指導者：神戸大学大学院国際協力研究科 松永 宣明 教授

講義/視察先：神戸大学/アジア工科大学院/名古屋大学/滋賀大学/

姫路市観光交流推進室/神戸市人事員会事務局/NPO 法人開発政策研究機構/アジア防災センター/阪神・淡路大震災記念人防災未来センター/(株)日本経済研究所/トヨタ自動車(株)/トヨタテクノミュージアム産業技術記念館/姫路城/圓教寺

【順不同】